

1998年(平成10年)3月

第 10 号

きぼう

この子等の幸せを考える親の会
 桜の木グループ

事務局

〒494 尾西市富田字漆畑16番地

TEL/FAX: 0586-61-6055

編集責任者: 広報・研修事業部

障害の重い人を支え合える町づくりを 講演会 開く

梅が咲き始める2月22日(日)に、尾西グリーンプラザホールにおいて、社会福祉法人愛光園常務理事の皿井寿子先生の講演会を開きました。

この講演会は、ハンディを持つ人たちのこの地域での暮らしについて、また私たちが今計画を進めている生活施設での暮らしについて学習しようという目的を持った大切な企画でした。皿井先生の講演は、障害のとても重い人への差別を克服し、その人の生命が光るのを受け止めることのできる人間観を育む施設運営や町づくりが必要不可欠という四半世紀の厳しくかつ豊かな実践のお話に、親、職員、関係者それぞれ心打たれました。

当日の講演会の参加者は、朝日新聞で紹介されたこともあって、名古屋や岐阜など遠方からの参加も多く、80名に達しました。日曜日とあって、親御さんの参加には、ご家族等の支えに感謝いたします。



2月22日、皿井先生のお話しに熱心に聴き入る参加者

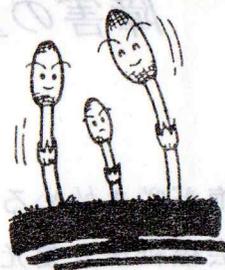
広報研修事業部より

皿井寿子先生の講演会開かれる

2月22日、愛光園の皿井寿子先生をお招きしての講演会は、親の会会員、檜の木の方々のほか、外部の方も大勢参加していただき大盛況に終わりました。

皿井先生の暖かく熱のこもったお話に、皆、心を打たれました。会場でのアンケートから皆さんの感想の一部をご紹介します。

皿井先生のみんなを飽きさせない話し方、熱意に引き込まれそうに聞き入りました。いつも世話になっている子供が人間として生まれ、自己実現こそが創造であり生産であるという言葉がとても印象的でやっと思ひもわかりました。母親としてそういう気持ちを子供から味わったことを思い出しました。こんなに私たちのことを応援してくださる先生に出会えてとても幸せな気持ちでした。



具体的で非常にわかりやすく楽しく聞くことが出来ました。一つ一つの話に自分が子供に対して接した方法等重ねて、反省しながらお聞きしました。私自身の子供に対する接し方、考え方が間違っていなかったことを確認出来ました。一人の人間として、年頃の娘として悔いの無い一生を送らせたいと思います。

障害者という人種はない。
生命の尊さはすべての人に変わらない。
あたりまえの人間として地域社会の中で暮らしていける環境作りすべての人が努力していく必要があることを改めて講演の中で学びました。

「親亡きあとのために」と施設建設を考えていたがその上に「地域の生活の中で生きていく」という、もう一歩上の立場、見地で考えていくことは参考になった。ただ、実際にできるかどうか……最重度の人を考えていくー生命を大切にーこれから肝に銘じておきたい。

質疑応答

- Q 生活ホームの運営について
A 愛知県の制度で運営しているが、人件費がかさむので、足りないところは会費制で親が負担している。
- Q ボランティアとのかかわりについて
A 理解してもらうためにはふれあいが必要。障害者もボランティアもお互いが育ちあう場になることが望ましいが、施設では対応が大変なので親がいっしょになって進められればいいですね。

《収益事業部より》

手芸品作り がんばってます！

毎月1回、市内にある南部公民館の一室をお借りして、手芸品作りに励んでいます。年15回程ある各地のバザーに出店するために、親達が心を込めて製作しています。今は、アームバンド、巾着類、子供用ベスト、マットなどが中心です。

今月は、下記の場所へ出張販売に出かけます。

この機会に、皆様とふれあいの時間が持てたらと思います。

ぜひ、お出かけください。
お待ちしております。

3月28日 尾西朝日農協
29日 まつりにて



〈ボランティアさん募集〉

毎月1回の手芸製作会に、参加していただけるボランティアさんを募集しています。今月の予定は、下記のとおりです。ご参加お待ちしております。

日	3月31日(火)
時	午前9:30~午後12:00
場 所	尾西市南部公民館
内 容	布で作るチューリップ・わかかの色分け
持ち物	裁縫道具



※「わかか」とは、靴下の製品ができるときに残る廃材料のことです。その「わかか」を使って、マットを作ります。ここでは、マットを作る前の色分けの作業をしています。

映画「どんぐりの家」上映会開かれる！

去る2月15日(日)、木曾川町総合福祉体育館にて映画「どんぐりの家」上映会が開かれ、親の会、利用者、職員の方々からも多数の参加者がありました。

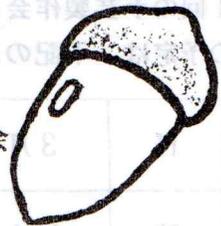
当日は、全体の目標数1000名をはるかに超す盛況で、映画の1コマ1コマに真剣に見入る参加者の顔が見られました。

障害児を子に持つという同じ悩みを持つ者同志、語り合うことから始め、共に悩み、ぶつかりあいながらも1つの目標に向かって歩いていったその姿からは、我々も多くのことを学ぶ思いがします。上映後、参加者からは「我が子が生まれたころを思い出し、涙が出て仕方なかった」「いろいろなことを考えさせられた」「(同じ障害児を持つ親として)元気がでてきた」といった感想が寄せられました。

なお、参加協力券は、皆様方のご協力のもと、合計180枚(うち社協取り扱い分24枚)、入金額196,000円の売上がありました。全体の純収益からの当会への配当金は、生活施設建設準備会にて相談のうえ有効な使い道を検討させていただきたいと考えております。皆様ご協力ありがとうございました。

これを機に地域に共感の輪が広がっていきますように。

この子等の幸せを考える親の会
生活施設建設準備会



慰安旅行

小規模作業所として、第5作業室がここ上祖父江に引っ越してきて2年目の春を迎えようとしています。先日、一年の締めくくりで、皆さんが心待ちにしていた慰安旅行に行ってきました。

2月26日27日に富士・伊豆方面への一泊二日の旅でしたが、何を隠そうこの旅の企画プランナーは皆さんでした。

4月当初から、時々話題に上っていた「新幹線に乗りたいね」という願いをこの旅行で実現することができたのです。小規模作業所のレクリエーションは、第一土曜日に行われる親睦会会議の中で内容などを決めています。議事、進行、書記と会長さんが二役引き受けてくれているので、職員の出る幕などないくらいです。今回の旅行についても、皆さんの話の中から、行き先をサファリパークにすることや、新幹線を交通手段として利用することなど自然に決まってきました。皆さんのイメージが現実として結びついた旅行です。

旅行当日、新幹線車内では、窓に張り付いて景色をずっと眺めている人、車内販売のワゴンに目を輝かせている人、持参したおやつをみんなに配っている人、トイレにうれしそうに駆け込む人、キヨスクで買った新聞・雑誌を読みふけている人、と皆さんそれぞれの思いで列車の旅を満喫されたようです。こうして見てみると、一見バラバラのような感じがしますが、いざ下車、出札というときにはちゃんと皆さん集まっての移動となります。サファリパーク内での見学はグループ行動になっていたんですが、いつの間にか全員集まっての見学になっていました。

一人一人のペースで歩いてるんだけど全員で楽しむことのできた、そんな旅行でした。

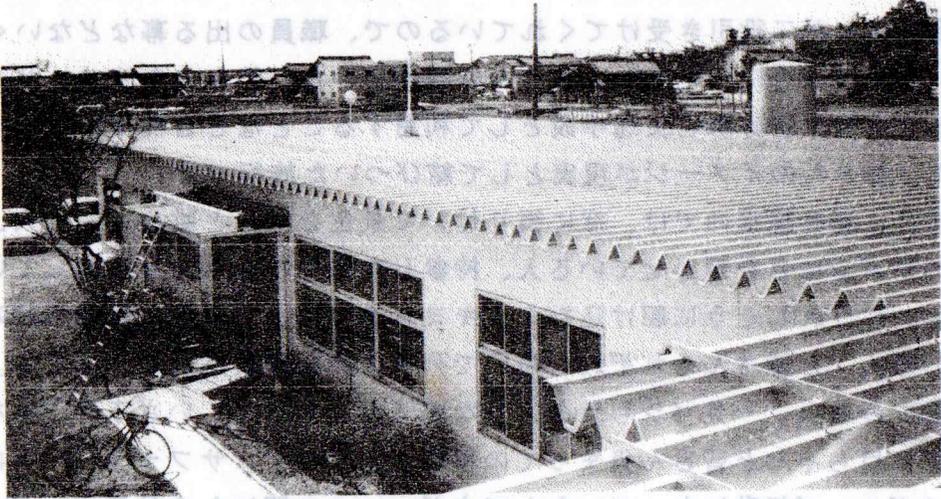


屋根折版塗装補修工事完了

屋根折版塗装補修工事完了

檜の木作業所は、昭和56年に開所以来17年の歳月を経て来ており、屋根折版に錆が出、雨漏りの対応が差し迫っていました。

昨年12月に、財団法人中央競馬馬主社会福祉財団の中京馬主協会様より助成を頂き、檜の木作業所の屋根折版塗装補修工事が完了し、銀色の輝きを取り戻しました。どうもありがとうございました。



平成9年12月、檜の木作業所の屋根の塗装工事が完了す。

檜の木グループ

社会福祉法人 檜の木福祉会

檜の木作業所 TEL61-6055

檜の木園 TEL62-8202

檜の木小規模作業所 TEL69-6780

この子等の幸せを考える親の会

〒494-0018

事務局愛知県尾西市富田字漆畑16番地

TEL/FAX 0586-61-6055